

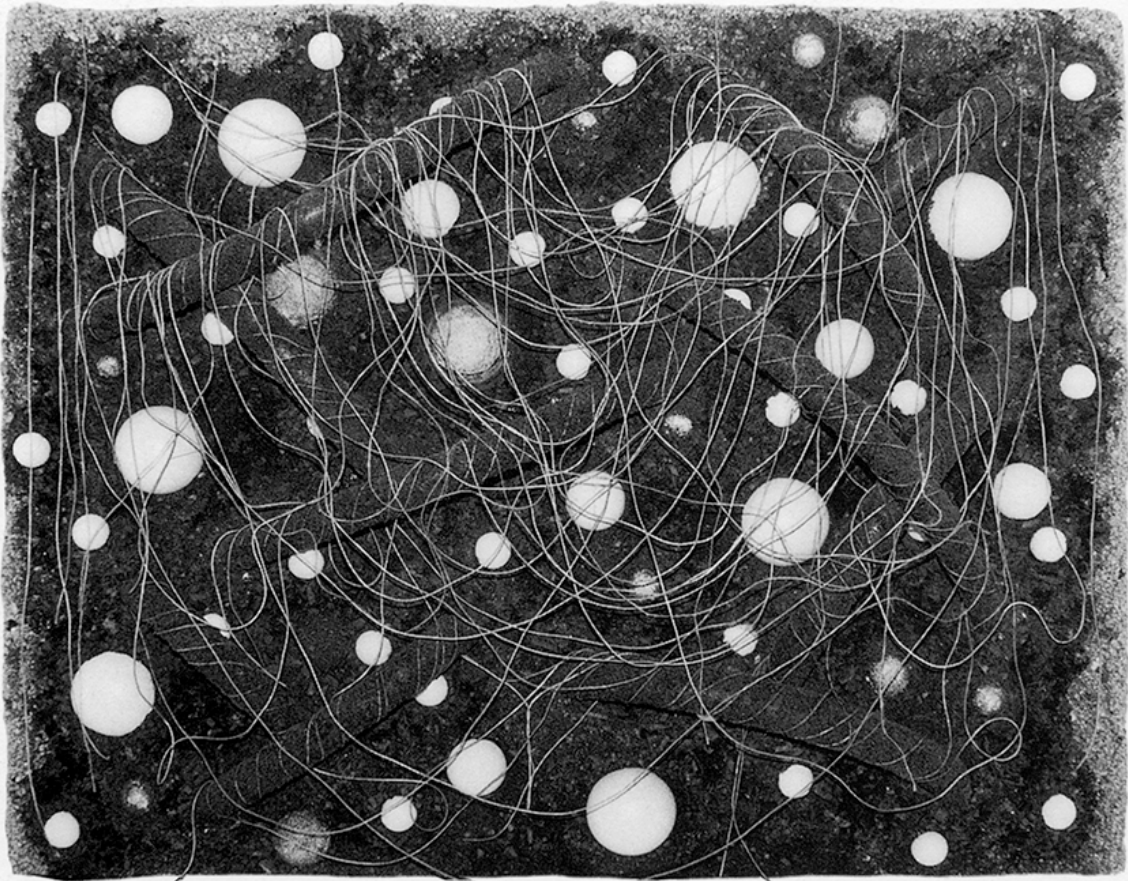
'94 神
4 々の
/ 18 の
{ 18 生
30 誕

HARUHIKO MAKINO

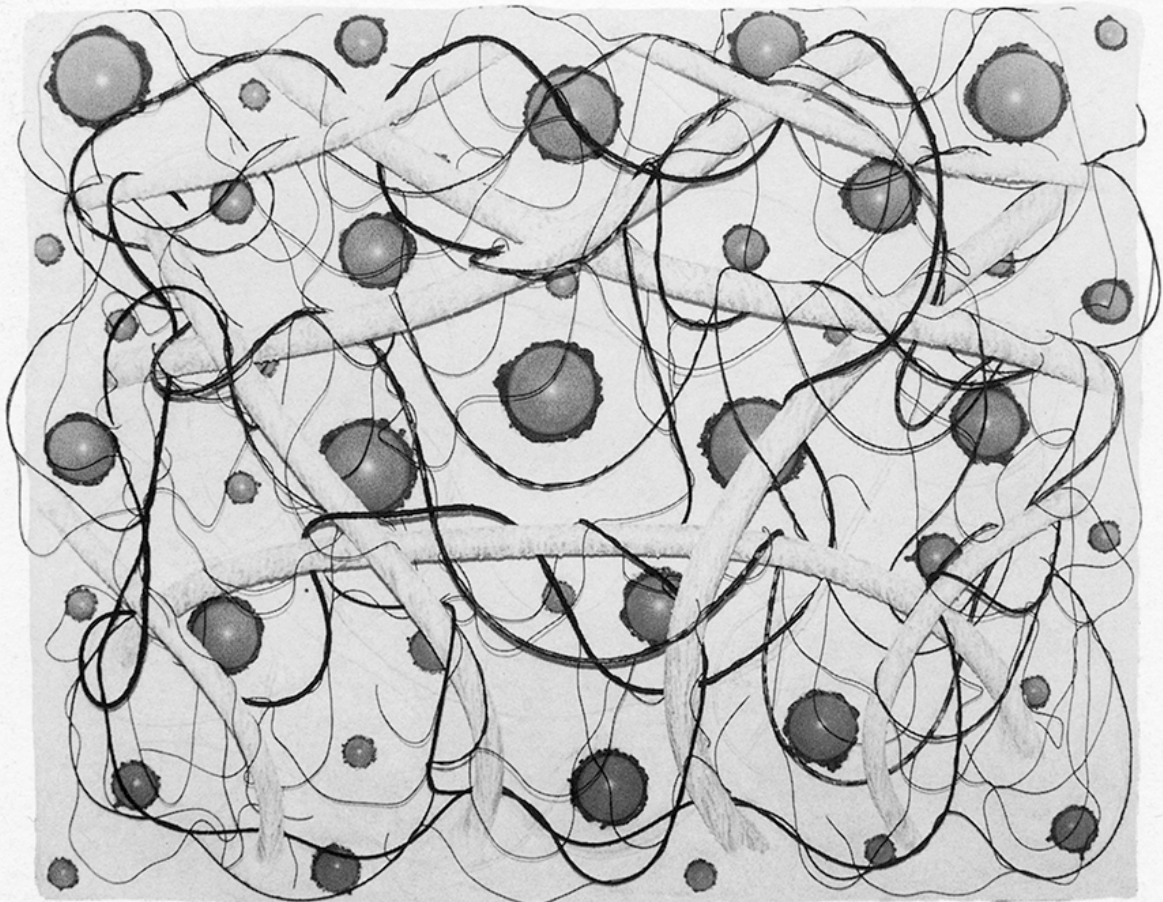
GALLERY SURGE

神々の生誕(部分) 1993 合板、アクリル絵具、土、砂、塩ビホース、チューブ、塩ビ半球、ビンボン球、藁、樹皮、樹脂 133×177×32cm





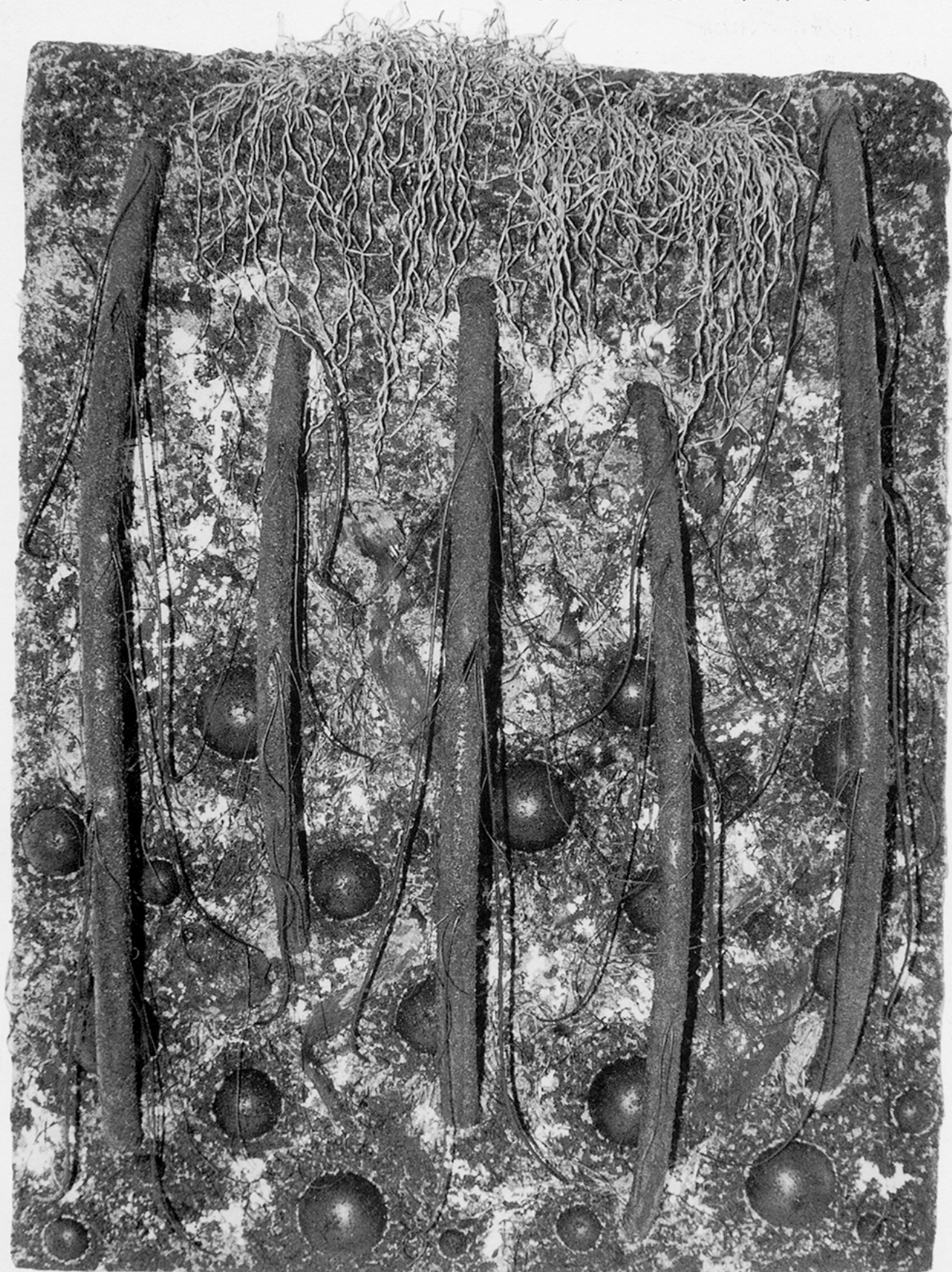
エロスの森 1993 合板、アクリル絵具、土、砂、石膏、塩ビホース、チューブ、塩ビ半球、ピンポン球、麻紐、墨汁、樹皮、樹脂 104×118×18cm



惑星の排卵 1993 合板、アクリル絵具、土、砂、石膏、塩ビホース、チューブ、塩ビ半球、ピンポン球、樹脂 121×153×18cm

生命の発生体であり、受容体でもある土の中に、マイクロコスモスとマクロコスモスが攪拌され、固められ、細胞、卵、惑星などが産まれている。生と死をつなぐ導火線が、植物的な曲線で血管のように、土から土へと伸びている。

人間の肉体は、エロティックな土でできているのだ。汎神論や唯物論は融合されて、土の中に埋没しているが、化石のように掘り起こさないことだ。多様な神々が頭上や土中で嘆くことになる。



作品を作ってくれたもの

原子核。染色体。遺伝子。ウイルス。破傷風。かまいたち。
動脈。静脈。葉脈。木が水を吸いあげるリズム。

「植物の葉をすりつぶした汁のようなものを、ポエトリとい
う」(西脇順三郎)。

「緑の導火線を通して花を駆り出す力は／ぼくの緑の
年齢を駆り出す。木の根を枯らす力は／ぼくの破壊者だ」
(D・トマス)。

「『魔の山』の主人公が女性の胸部レントゲン写真を見
て恋する話」(T・マン)。

夜、蛇や鳥の吐いた空気を吸いながら、鶏の砂肝を妙
める。台所の気温が上がり、空気の分子が激しく飛びはね
ている。

「今夜とった、この食事や飲んだワイン、あらゆるものが
人間に影響を与えるのさ」(H・ミラー)。

「ひとつの沈黙がうまれるのは／われわれの頭上で/
天使が「時」をさえざるからだ」「一瞬のめまいが／きみの
全生涯の軸になる」(田村隆一)。

「かつて地上を歩いた人々が、いまは足の下で眠ってい
る」(J・ジョイス)。

では、おやすみなさい。

牧野晴彦 略歴

- 1955 新潟県生まれ
- 1977 東京デザイナー学院卒業
- 1978 この頃、詩、小説を耽読。特に田村隆一、西脇
順三郎、D・トマス、W・H・オーデンに
衝撃を受ける。
- 1980 デザイン会社に勤めながら、
アート全般と生命、宇
宙の関係について
考察を続ける。
- 1994 ギャラリーサージ
(東京) 個展

